



2008年(平成20年) 10月19日 日曜日

「みんなで明るく挨拶をしよう会」が設立十周年を迎えた。参加者は着実に増えている。記念のパーティーで、私は「冷たい世の中、ここまで会が発展するとは」と正直な感想を述べた。

設立の中心人物は、京大出身の元通産官僚野々内隆さんである。彼の発想は、「会社の幹部に働きかけて、彼らの方から部下に挨拶すれば、挨拶の輪が広がっていくのではないか」というものである。彼の運動を株式会社のコクヨ有志が支えた。

時の文部大臣は町村信孝さんで、「少し補助金を出そうか」という話もあったが、野々内さんたちは断った。「お金のかかる運動じゃないし、補助金を貰って官に縛られるのは嫌だから」というのである。民の心意気高らかなのがよい。

そのようにして、大組織の幹部を対象とする純粹民間の、ちよつと変わったボランティア活動が始まった。そこが気に入ったのか、町村さんは、国会の忙しい中、記念パーティーにも参加して、熱いエールを送った。

私は、地域の活動はまず挨拶から始まると思っているから、発起人に

## 堀田 力 ほった つとむ 挨拶をしよう会 さわ や か 福祉財団理事



参加させてもらった。

しかし、世の中、なかなか温かくならない。

入会された元チエアマン川淵三郎さんが「家の近くで会った母子連れに挨拶したら、若いお母さんが子どもに「知らないおじさんに挨拶したらダメ」と叱った」とがっかりしておられたが、そういう「教え」

がかなり一般化している。子どもが挨拶しなくても、残念なことには誘拐は起きる。これを防ぐ

手だてをしつかりすることが必要で、子どもに大人全体に対する不信感を植え付けるのは、子どもの成長に大きなマイナスになると思う。

会の幹部である滋賀の宮川進さん(78)が大津市長に働きかけ、大津市の団体が「あいさつはえがおそえてわたしから」というポスターを作って町に張り出した。

そういう市が増えてほしいと思う。



平成20年10月7日開催の第11回総会の模様や、会の紹介を幹事の堀田 力様が京都新聞福祉ページのコラム「暖流」に取り上げていただきました。